

循環型ゴミ社会

～森里海繋がっているのは豊かさだけ?～

京都府立海洋高等学校海洋科学科

馬渡悠太 近藤勇樹 田中優太 福井葵 宮垣了
栗田慧治郎 松井克樹 勢旗悠太 今海葵
村田結子 竹田利休 延尾泰雅 森下十柊



背景・目的

近年、海洋ごみが世界的な問題となっている。現在、世界の海には約1億5000万トンの海洋ごみが存在し、毎年少なくとも約800万トンが新たに流入していると推定されている。そのうち約60～70%は森・里・街など陸域に由来すると言われており、陸と海のつながりを意識した取り組みが求められている。本発表では、本校が行っている活動および研究の内容と、今後の展望について発表する。

海ごみの実態

・発生源の大別

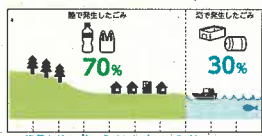
参考資料引用元：香川県ホームページ
なぎさのごみハンドブック



①陸から生じ海へ
風・排水 → 川 → 海

②海または海付近で発生

・発生源の割合



・陸域で発生している割合
70～80%

・海で発生している割合
20～30%

これらの資料から、海ごみの減少には、
陸域からの対策が極めて重要だと言える。

「海の近くに住んでいないから関係ない」ではない!!

探求活動内容

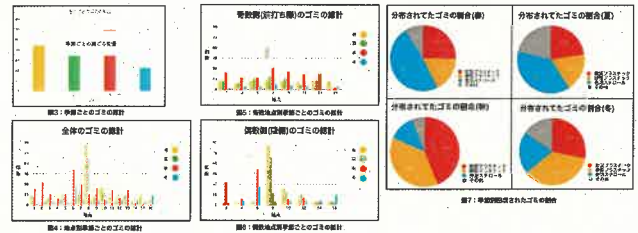
・調査方法

- ①1㎡のコドラート法を使用。
- ②8地点16箇所で見回り回収を行う。
- ③季節ごとにデータを区分する。



・調査地点

●はそれぞれ50m間隔



奇数が波の最高到達点、偶数が奇数地点から4m陸側。

・調査結果

- ①最も海ごみが多かった季節は秋。
- ②陸側と海側ではごみの量に大きな差が見られた。
- ③発泡スチロールの回収量は、春夏では約半数を占めていたが、秋冬には減少していた。

・考察

- ①春から夏にかけて発泡スチロールが多く見られる原因は、流れ藻が影響しているのではないかと推察される。
- ②秋に海ごみが多い原因は、丹後地域特有の「うらにし」が影響しているのではないかと推察される。

本校が取り組んでいる活動

・海ごみ教室

・由良川クリーン大作戦



・循環フェス

・宮津SDGsフェスタ



展望

①天候と海ごみの関係調査

・海ごみが発生する要因を理解できる
→効率的な清掃活動や環境保全

②海ごみの流入実態調査

・ゴミ発生源の特定→陸域でのゴミ流出防止対策

③ゴミ箱、ポイ捨て禁止看板の設置

・不法投棄の減少→景観の保全

④地域住民との清掃活動の実施

・地域住民のごみ問題に対する意識向上